

子どもが生き生きと学ぶ生活科

～気づきを深めるための活動や支援のあり方について～

I. 研究の内容

1. 理論研究

- ・昨年度のサブテーマにあった「気づきの質を高める」というキーワードを受け、今年度も「気づき」に注目し、「気づき」を深めていくための活動や支援の方法を学習していくことになった。そのために、「気づき」についての資料を持ち寄り学習会を行った。具体的な活動や体験から生まれた気づきを教師が鋭くとらえて、取り上げ・褒め・みんなに紹介して返すことが大事であること。また、「交流する」「発表する」というという表現活動をすることで「気づき」が共有されて深まっていくことなどが確認された。
- ・講師に嶋崎修指導主事をお招きし、「学習指導要領改善のポイント」を詳しく話していただいた。特に「気づきの質を高める学習活動の充実」については、児童に何を気付かせたいのかを明確にすることや見つける、比べる、たとえるなどの学習活動を工夫することを教えていただいた。

2. 授業研究

(1) 第1学年「ぐんぐんそだて ～見つけたよ！あさがおのふしぎ～」

(授業者 八幡小 磯野裕弥先生)

あさがおの成長や変化の様子を種まきから夏休み後まで追い、その中で生まれた一人一人の発見や気づきを大切に取り上げて、次に生かしていく授業実践を行った。

子どもたちは、これまでにかけた観察カードを友だちと交換し、友だちのカードを見て発見したことや気付いたことを考え、発表した。特に「見たこと」「さわったこと」「思ったこと」という観点が示されていたので、見つけやすかったようである。このように個人の気づきを、グループや全体の場で交流することで気づきが共有され、最後に実物を見て確認したことでその気づきをさらに一人一人の中で深めることができた。また、実践全体を通して、子どもたちの願いや思いを大切にし、それらを次の活動につなげている様子がよくわかった。

(2) 第1学年「みんなだいすき」

(授業者 塩山南小 相澤 由佳先生)

家族との楽しい思い出や仕事などを振り返りながら、家族の一員としての自分に気づき、さらに大好きな家族のために自分にできることを考え実践する授業を行った。家族との思い出を振り返った後で、家の中の音に注目し、家の仕事に気付くことで感謝の気持ちを持つことができた。またそんな家族を喜ばせたり、楽しませた

りするための「家族にこにこ大作戦」を考え、各家庭で実践し、それを発表した。

発表の仕方は、似た内容のグループで話し合い、実演や劇などで分かりやすく表現した。発表後の質問や感想などからは、「作戦のよさ」に触れる気付きは出にくかったようだが、授業の終末に書いた振り返りカードにはたくさんの気付きが見られ、同じ作戦でもそのやり方やよさの違いに気付いたり、自分の作戦と比べたり、今後やってみたい作戦についても書かれたりして、広がりや深まりが感じられた。

3. 学習会

- ・武川啓子先生を講師に迎え、豆腐作りを体験した。大豆から作るということで難しいと思っていたが、ポイントさえ押さえれば比較的簡単に作れることが分かった。栽培活動の後の「作って食べる」レポーターが増えたので、今後生かしていきたい。

II. 成果と課題

1. 今年度の成果

- ・授業研究や学習会を通して、気付きを深めるための活動や支援が学べた。
 - *個々の気付きを交流し、伝え合う中で、気付きをみんなのものとして共有できることが明らかになった。気付きを深めるためには、伝え合う活動が大切である。
 - *目標をはっきりさせることで、気付かせたいことも明確になり、支援の方法も具体化してくることが分かった。
 - *日常生活での経験を大切にする。経験を通して、気付きが生まれたり、新たな課題や多様な考え方が生まれることを感じた。
 - *一人一人のつぶやきや気付きを大切に uptake し、返すという指導の積み重ねから、気付きが深まるだけでなく、言葉や文章表現なども豊かになることが分かった。
- ・毎年同じ時期の授業研究であるため、同じ単元になってしまったが、やり方が変わるとまた違った内容になることを学ぶことができ、参考になった。
- ・積極的な資料提供をしたことで、部全体で授業を作っていくという意識が持てて良かった。

2. 来年度へ向けての課題

- ・「気付きを深める」とは、どういう状態なのかが分かりにくいので、そのための具体的な活動や手立てを今後考えていきたい。
- ・身近な自然や地域の特色を生かした題材についての学習ができなかった。地域の学習や栽培活動などで教師が知っておいた方がいいことなどについても学習していきたい。

(部長 小幡 香織)